

# 特集 「生きる力と希望をはぐくむ教育の推進」

——「さいたま市小・中一貫教育」研究指定校 ——

## 夢のある未来をはぐくむ、 調和のとれた小・中一貫教育の推進



西区 指扇北小学校 教諭 三星 友美

### 1 はじめに

本校は、平成26・27年度の2年間、さいたま市教育委員会の研究指定を受け、指扇中学校とともに「さいたま市小・中一貫教育」の研究に取り組んでいる。主題を「夢のある未来をはぐくむ、調和のとれた小・中一貫教育の推進」と設定した。1年目に当たる今年度は、確かな学力の向上を目指して「算数の学習指導」、中1ギャップの緩和のため「中学校との交流」に重点を置いて研究を進めている。

### 2 研究の概要

#### (1) 目指す児童像

本校は、昨年度より算数の研究を継続して行っている。その研究を生かし小・中一貫教育の研究につなげられるようにするため、児童へのアンケートや教職員の話し合いの中から、「自ら考え表現することができる児童」を目指す児童像とした。

#### (2) 研究の視点と手立て

本校の目指す児童像に近付けるため、以下のような視点と手立てを設定した。

##### 視点Ⅰ

自力解決の段階で、考えを一人ひとりがもてるようにするための工夫

手立て①見通しの工夫

手立て②算数コーナーの活用

手立て③ペアでの話し合いの活用

手立て④ヒントコーナーの工夫

##### 視点Ⅱ

比較検討の段階で、自分の考えを発表できるようにするための工夫

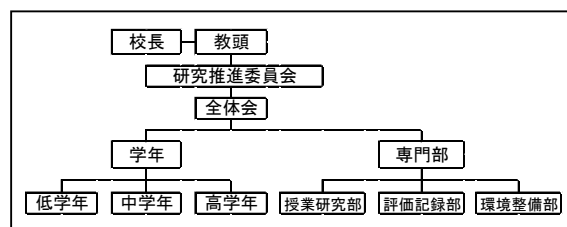
手立て⑤発問の工夫

手立て⑥ペアでの話し合いの活用

手立て⑦板書の工夫

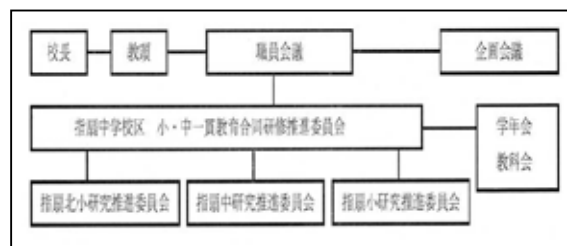
#### (3) 研究組織

①年度当初より確かな学力の向上を目指して、本校独自の組織を編成した。各部会の役割を明確にし、部会ごとに研究を進められるようにした。



②2学期より、小・中一貫教育を進めるため中学校と共通の部会を構成した。

専門部は「学習連携部会」「生活連携部会」「学校安全部会」の3部会に分かれ、各部会のチームを中心に、小学校と中学校のよさを生かしながらか話し合いを進められるようにした。



### 3 研究の内容

#### (1) 9年間を見通した授業づくり

本校は、各学年で年間1回、研究授業を行っている。学習指導案作成のポイントとして、9年間の系統性を確認し、学習指導案に位置付けることとした。そうすることで、小学校から中学校だけ

でなく、各学年間の接続を円滑にするための方法を教職員が考えられるようになり、授業のねらいの明確化が図られ、既習事項を生かした授業づくりを行うことができた。

## (2) 中学校教員と連携した授業

### ①研究授業

今年度は、1学期に「小・中一貫教育先行授業」として、中学校の数学の教員と連携をして算数の研究授業を行った。小学校で学ぶ「分数のわり算」の学習が、中学校ではどのように生かされているのかを知るよい機会となった。



### ②普通の授業

研究授業だけでなく、水曜日に音楽・算数、木曜日に家庭科と普通の授業においても中学校と連携した授業を行っている。効果的に連携が行えるように、学習している単元や時程等、毎週、小学校と中学校で密に連絡を取り合っている。



した授業を行っている。効果的に連携が行えるように、学習している単元や時程等、毎週、小学校と中学校で密に連絡を

## (3) 小学校教員と中学校教員の授業参観

小学校教員は、1学期に中学校の様子を参観し、今後の児童の指導について検討をした。

中学校教員は、1学期は6月、2学期は11月に1か月間の授業参観月間を設定し、小学校の授業を参観した。参観の際は学習連携シートを用いて互いの授業の感想を伝え、交流に生かした。

## (4) 行事を通しての交流

### ①部活動体験

つばみの日以外に、部活動体験の日を設定した。6年生に事前のアンケートを取り、2つの部活動を体験できるようにした。また、1つの部活に対し40分間体験でき



るようにし、先輩や担当の教員とかかわる時間を確保し、児童の不安を少しでも取り除けるようにした。

### ②音楽会への参加

今年度、6年生が中学校の合唱コンクールに参加する機会を設けた。中学生の迫力ある歌声やクラスが一致団結して熱心



に取り組む姿勢など、小学校との違いを知り、中学校に対して興味をもたせるよいきっかけとなった。

## (5) 教職員の合同研修

平成25年度の2月に先行して、第1回小・中一貫教育合同研修会を行った。今年度の8月に第2回目を行った。2回の研修会を通して、小・中一貫教育についての講義を受け、小学校と中学校



の違いなどについて共通理解を図ることができた。また、教員同士の交流も深めることができた。

## 4 成果と課題 (○成果 ●課題)

- 算数に関して、中学校までの9年間の系統性を意識した授業を行うことができた。
- 授業を中学校と連携して行うことで、児童の技能の向上を図ることができた。
- 行事等の交流を通して、児童の不安を少しずつ取り除くことができ、期待をもたせることにつながった。
- 小・中合同の研修の機会を増やし、今まで以上に意見を交換したり、情報を共有したりできるようにしたい。

## 5 おわりに

今年度の研究をもとに、生活連携や学校安全についても研修を進め、主題である「夢のある未来をはぐくむ、調和のとれた小・中一貫教育」に近付けていきたい。